

生態の
「見える化」で、
日本の自然を
もっと豊かに。

FUJITSU



環境データを24時間計測・蓄積して人の五感を越えた最適な環境保全に導く

日本の生物多様性保全のためには、ICTを活用し、動植物の生態を「見える化」することが有効だと富士通は考えています。例えば、餌付けに頼らず絶滅危惧種のタンチョウ保全を目指す自然採食地に、カメラ付きセンシングユニットを設置し、定期的に静止画を無線ネットワークで収集。継続的にデータを収集することで、新たな生態の発見やより効果的な採食地整備に活用しています。今、富士通は、保全活動に関わる方々と共同で取り組み、低コストで簡易なセンシング機器の開発・改良を進め、業種業態の枠を越えたセンシング技術の適用範囲をひろげています。

富士通の「分野を越えたセンシング技術」

※この画像は、広告上の演出によるものです。